

国土交通大臣

石井 啓一 様

国の施策等に関する 提案・要望書

(平成28年7月)

鳥取県自治体代表者会議
鳥取県地方分権推進連盟

鳥	取	県	知	事	平	井	伸	治
鳥	取	県	議	会	議	長	正	一
鳥	取	県	市	長	会	長	義	彦
鳥	取	県	市	議	会	長	研	二
鳥	取	県	町	村	会	長	昌	司
鳥	取	県	町	村	議	会	哲	治

北東アジアゲートウェイ「境港」の重点整備について

《提案・要望の内容》

- 山陰地方の国内海上輸送の効率化や大型客船の寄港増大等に対応するため、境港ふ頭再編改良事業〔竹内南地区貨客船ターミナル整備〕の重点実施により早期完成すること。
- 年々、増加するクルーズ船の寄港に対応するため、中野地区など貨物ターミナルでの大型客船の受け入れに必要となる施設整備を積極的に図ること。

〈参考〉竹内南地区貨客船ターミナルの状況

- 境港と韓国（東海）及びロシア（ウラジオストク）を結ぶ国際定期貨客船は、就航から7年が経過し延べ17万人を超える旅客が利用するなど、更なる利用促進に取り組んでいる。
- 内航RORO船の定期化による日本海側海上輸送網のミッシングリンクを解消する新たな物流ルート確立のため、平成27年7月に国土交通省と連携し、産学金官による「境港流通プラットフォーム」を設立した。
平成27年度は、境港～北九州ひびき港「SEA&RAIL トライアル輸送」を実施し、貨物への影響などの検証と、新たな定期航路就航に向けた潜在的貨物量の試算を行った。
- 更に今年度は、既存航路の延伸による北海道方面への2週連続トライアル輸送を実施するとともに、国際定期航路との接続による国内広域貨物集荷の可能性と圏域内企業の物流効率化のため、小口混載貨物のRORO船利用基礎調査に着手し、北海道と九州及び北東アジアの結節点として、境港への内航定期RORO船就航による圏域及び国内産業競争力の強化に向けて取り組むこととしている。
今年5月の「境港流通プラットフォーム」総会において、定期航路の就航は運輸業界から物流課題の解決となり、金融・経済会からは地域経済の活性化に寄与し雇用創出に繋がるとの意見がだされるなど、大きな期待が寄せられたところであり、官民挙げて活動の展開を図っている。
- クルーズ船については、「境港クルーズ客船環境づくり会議」やふ頭内臨時免税店の出店など、官民、地域が一体となってクルーズ船の寄港拡大に取り組んだ結果、「爆買」報道の大型クルーズ客船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」の昨年に続く寄港や、西日本周遊クルーズ「コスタ・ビクトリア」の連続10回寄港など、過去最高であった昨年の寄港回数23回、旅客数1万9千人を大幅に上回る寄港回数35回、旅客数約4万人が見込まれており、地域経済の活性化に大きく寄与しているところである。
今年3月、政府が策定した『明日の日本を支える観光ビジョン』で示された「お断りゼロ」に向けて、利用者調整等積極的に行い可能な限り受け入れているが、既存施設では対応に限りがある。
- アジアのクルーズ人口は急速に増加しており、今後も更なる増加が見込まれていることから、船社からは早急な受け入れ態勢の整備が求められており、新たな岸壁の整備のほか既存岸壁のストック効果を最大化するためにも、大型クルーズ客船の受入を可能とする施設整備が必要である。

境界港主要施設

外港昭和南地区



地区名	主要施設	主要取扱貨物等
外港昭和南	-14mバース	コンテナ貨物
	-13mバース	木材チップ、雑貨品

江島地区



地区名	主要施設	主要取扱貨物等
江島	-9mバース	原木・石材
	-7.5mバース	セメント



竹内南地区 貨客船ターミナル (H27年度事業着手)

国際物流ターミナルを利用した大型客船受入施設整備

国際旅客ターミナル (仮設)

外港昭和北地区



地区名	主要施設	主要取扱貨物等
外港昭和北	-9mバース	セメント・原木
	-7.5mバース	重油、雑貨品

江島大橋 (ベタ踏み坂)

江島地区

外江地区

内港地区

松江市美保関町

松江市八束町

大山

米子市

安来市

米子鬼太郎空港

弓ヶ浜

外港内南地区

外港竹内地区

外港中野地区

外港昭和南地区

外港昭和北地区

境港ふ頭再編改良事業【竹内南貨客船ターミナル整備】北東アジアゲートウェイ「境港」の機能強化



①国内海上輸送のミッシングリンクの解消を図るとともに、②国内・国際物流の拡大・連結

③急増・大型化するクルーズ船寄港に対応！【境港流通プラットフォーム協議会設立(7月11日)～産学金官が力を合わせ目標実現～】

①国内海上輸送のミッシングリンク解消

ミッシングリンクを解消し、日本海側（九州～境港～北海道）の物流促進と効率化を実現

国内定期フェリー・RORO航路

国内海上輸送航路のミッシングリンク



【RORO航路誘致による効果】

- 国内海上輸送網のミッシングリンクの解消。
 - 物流の効率化により、中海・宍道湖・大山圏域及び中国地方の産業競争力の強化
 - 船舶へのモーダルシフトにより、ドライバードライバー不足やCO2削減等環境問題に対応。
 - 大規模地震時の海上輸送におけるリダンダンシーを確保。
- 九州から北海道までの日本海側海上輸送網の構築。今年度は、**既存航路の延伸による試験輸送を実施**する。

②国内・国際物流の拡大・連結

新たな物流ルートの確立

就航7年目を迎える！！
我が国唯一の環日本海定期貨客船航路
7年で17万人以上の旅客輸送



【国際国内物流の連結による効果】

- 北東アジアゲートウェイとして、境港を**国内・国際物流の結節点**として圏域の経済活動の拡大。
 - 国際定期貨客船との連結により、**新たな物流ルートの確立**。
 - コスト削減、リードタイム縮減。（上海航路運航日数短縮、輸出11日→4日）（活魚運搬車による試験輸送の実施：H24）
- 物流Y社による、小口貨物の国際的な材料調達の新サービスの検討。

③急増・大型化するクルーズ船寄港への対応

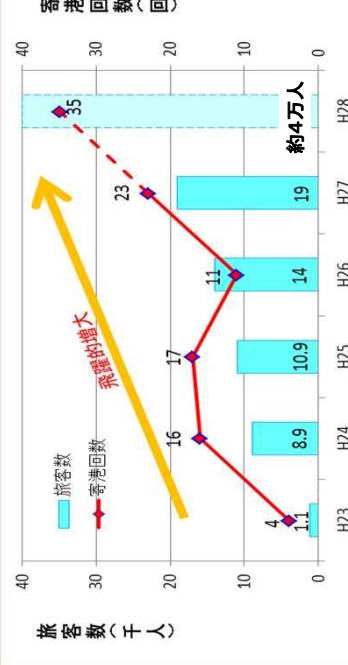
クルーズ客船によるインバウンドの飛躍的拡大

昭和南地区



冬季初入港

H28初入港 スカイシー・ゴールデン・エラ号初寄港(H28. 1. 8)



今年、環日本海連続クルーズもあり、**35回**の寄港で、乗客数約**4万人**を見込む！

今年初となるスカイシー・ゴールデン・エラが冬季初入港し、明るい幕開けとなった。

官民のおもてなし

- ・観光案内通訳ボランティアが始動
- ・岸壁での免税店、Wi-Fi、外貨両替の設置
- ・免税店が1年間で10倍以上（78店舗）に増加

今年も爆買い

境港ふ頭再編改良事業【竹内南貨客船ターミナル整備】 北東アジアゲートウェイ「境港」の機能強化



○定期航路可に向けた試験輸送を実施

【目的】海上輸送網のミッシングリンクの解消とモーダルシフトによる環境負荷・輸送コストの低減を目指す！

平成27年度

九州方面への試験輸送

【SEA&RAIL 一貫輸送】

北九州港－境港－北九州港



平成27年12月8日(火)～10日(木)

貨物:コンテナ (12/31/40ft)
(移入) コンテナ46本(12フィート換算)
農産物、機械部品、酒類、自動車等
(移出)コンテナ51本(12フィート換算)
紙製品、水、農機、合板、自動車等

平成28年度

北海道方面へのRORO試験輸送

【既存航路活用(延伸)】

境港－敦賀港－苫小牧港



平成28年6月20日(月)、27日(月)

貨物 : シャーシ、自走
(移入)20日19本、27日12本
新聞用紙、自転車、小豆等
(移出)20日11本、27日24本
合板、農機、天然水、文房具、洋紙等

○流行語大賞受賞「爆買い」が発生

「クアンタム・オブ・ザ・シーズ(16万t級、乗客4,700名)」の寄港より「爆買い」が発生、「境港」が全国の話題となった！

昨年のクルーズ船の寄港は、23回1万9千人となり過去最高記録となった。(本州日本海側第1位)

今年も多くのオフアアが来ており、既に受け入れの出来ない船も出てきている。現時点で寄港数35回、乗客数約4万人を見込む！

(16万t級大型クルーズ客船 昨年1回 → 今年3回を予定)



【爆買いの状況】

「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」(H27.7.2寄港)の乗客約4000名が100台を超えるバスで、日吉津村にある大型ショッピングセンターへ。

買い物がごいっぱいに商品を買う姿が爆買いと報道。
※観光振興・消費喚起・賑わいづくりなどに、大きく貢献している。

貨物ターミナルを利用した

「賢く使う」大型クルーズ客船受入施設整備



【貨物ターミナル整備イメージ】



中野地区国際物流ターミナル

クルーズ客船「お断りゼロ」に向けて

既存施設を最大限活用「賢く使う」岸壁に係留施設を整備することで、岸壁長さより船長が大きい船舶(11万トン級クルーズ客船)の係留が可能となる。

【現状に係留可能クルーズ船舶の例】



ぱふいっくびいなす
(総トン数：26,594トン、全長：183.4m、乗客定員：476名)



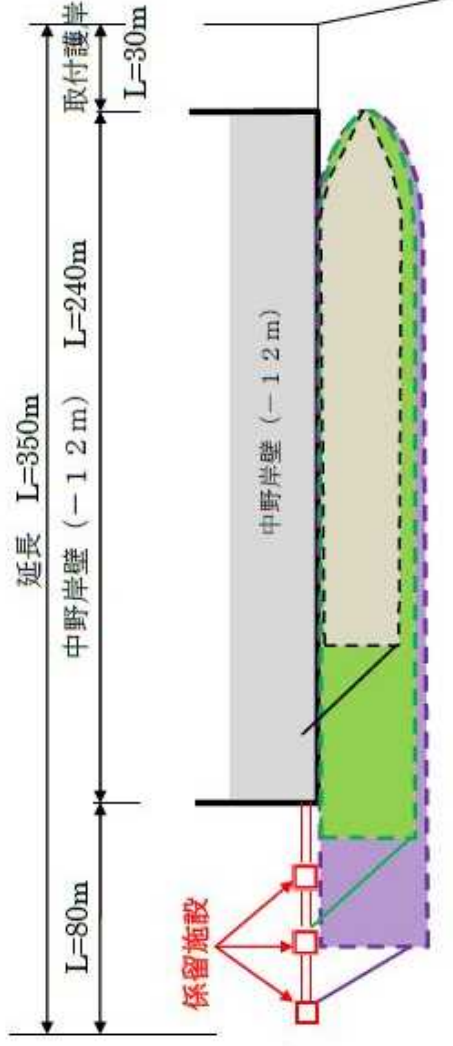
【係留施設整備後係留可能クルーズ船舶の例】



コスタ・ピクトリア
(総トン数：75,166トン、全長：252.9m、乗客定員1,928名)



ダイヤモンド・プリンセス
(総トン数：115,906トン、全長：290m、乗客定員：2,706名)



「鳥取港」の機能強化について

《提案・要望の内容》

○我が国の経済再生や国土強靱化を推進し日本海国土軸を形成するため、地域経済（原木輸出、PKS輸入）や賑わいづくりを支える鳥取港の機能強化を実施すること。

- ① 船舶の安全な航路を確保し、利用者の安全性・利便性向上のため、港口部の堆砂対策を行うこと
- ② 船舶の係留や停泊、荷役作業が安全に行えるよう、港内静穏度向上対策を行うこと。
- ③ 今後、老朽化した施設の更新費が増大することから、施設の長寿命化のための予算を確保すること。

<参考>

○鳥取港の機能強化

鳥取港は、本県東・中部、兵庫県及び岡山県北部を背後圏とした海上物流拠点であり、鳥取道開通、山陰道・山陰近畿道の整備が進展するなか、昨年12月に中国に向け原木の初輸出を行い、今年はバイオマス発電用のPKS輸入が開始されるなど新たな港の活用が見込まれており、さらなる圏域の拡大と、物流機能の強化が必要である。

一方、港湾の機能面では、沿岸漂砂等の港口部堆砂による入港船舶に対する喫水不足や港内静穏度不良により、入港や、係留・荷役作業の支障となっている。

このため、港口部の堆砂対策や港内静穏度の向上に取り組むとともに、既存施設の延命化や安全性向上など、鳥取港の機能強化を図ることにより、圏域企業の物流機能強化を図る。

- ①毎年、冬期から春期にかけて、日本海側特有の波浪により、沿岸漂砂や千代川からの砂が鳥取港港口に堆積する。このため、船舶の安全航行確保に多額の浚渫費用を要しており、**港口部の堆砂対策**が必要である。
- ②主要岸壁である1号、2号、3号岸壁の静穏度が悪く、港湾利用者から安全に船舶の係留や停泊、荷役作業を行えるよう改善を求められており、**港内の静穏度向上**が必要である。
- ③鳥取港の港湾施設は、整備後30年が経過し、劣化・損傷が進行しており、今後、老朽化した施設の維持管理・更新費が増大する。このため、**施設の長寿命化**を行うための予算確保が必要である。

鳥取港の機能強化

【機能強化①】 港口部の堆砂対策

【現状の課題】

○毎年、冬季～春季にかけて、日本海側特有の風浪により、沿岸漂砂等が鳥取港港口に堆積。船舶の安全航行確保に多額の浚渫費用が必要。

年間 浚渫費 **6千万円以上**

浚渫量 **2万8千m³以上**

例年の
H27年度[異常堆積] 約4倍の堆積
堆積費 **約2億4千万円以上**

浚渫量 **約8万m³**

※【浚渫計画】H27年度:1億4千万
H28年度:1億1千万
H29年度:1億1千万

1万トンの貨物船入港が困難
(水深-10m)

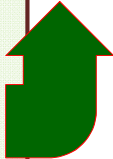
【新規貨物】

- ・H28年度から民間木質バイオマス発電施設稼働
- ・東南アジアよりPKS(ヤシ殻)を輸入。(1万トン×5回/年)

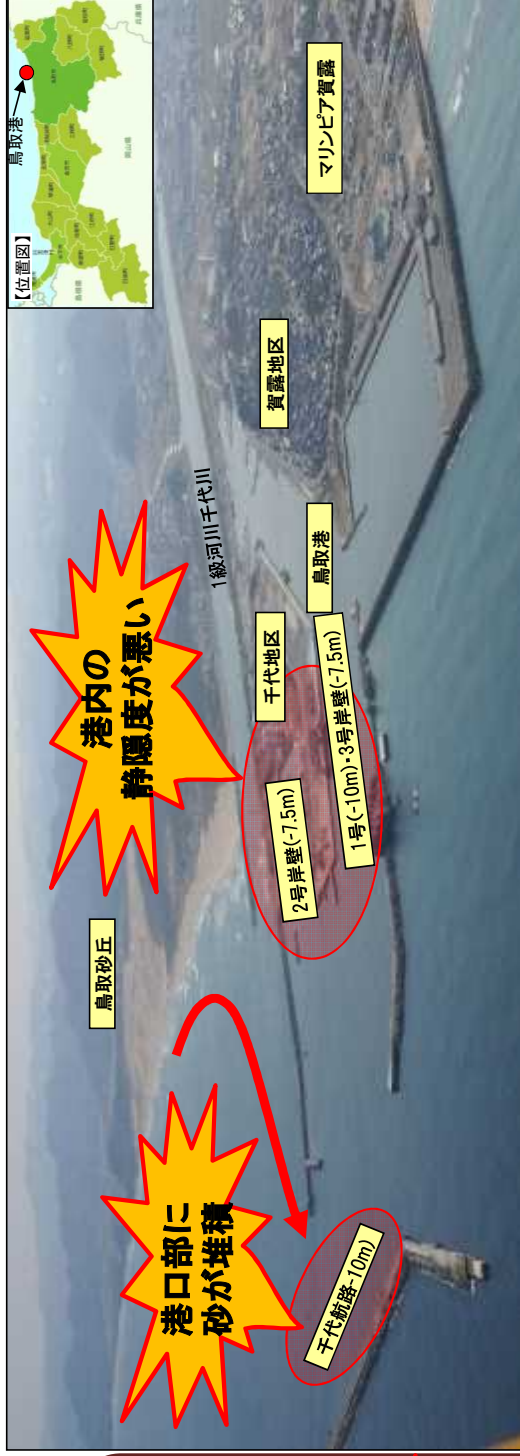
港口部の堆積対策が急務

【事業効果】

- ・船舶の安全な航路を確保
- ・港湾利用者の安全性・利便性が向上



取扱貨物の増加、物流コスト削減



【機能強化②】 港内静穏度の向上

【現状の課題】

○1,2,3号岸壁の静穏度が悪く、港湾利用者より安全に船舶の係留や停泊、荷役作業を行えるよう改善が求められている。

【利用者の声】

- ・港外の波高が4m～5mとなると岸壁に係留できない。係留索が切れたこともある。(1,2,3号岸壁)

【1,2,3号岸壁取扱貨物】
全体貨物量の**91%**

港内の静穏度向上が急務

【事業効果】

- ・港湾利用者の荷役稼働率が向上
- ・港湾利用者の安全性・利便性が向上



【機能強化③】 施設の長寿命化

【現状の課題】

○港湾施設は、整備後30年が経過しており、劣化の損傷が激しい。
○今後、老朽化した施設の維持管理・更新費が増大。

エプロン部のひび割れ



上部工梁部のひび割れ



施設の長寿命化が急務

【当面修繕が必要な施設】
・2号、4号、5号岸壁
・質露1号、2号物揚場 等

予算確保が必要

【事業効果】

- ・計画的に修繕・改良を行い、将来の維持管理・更新コストの抑制や平準化



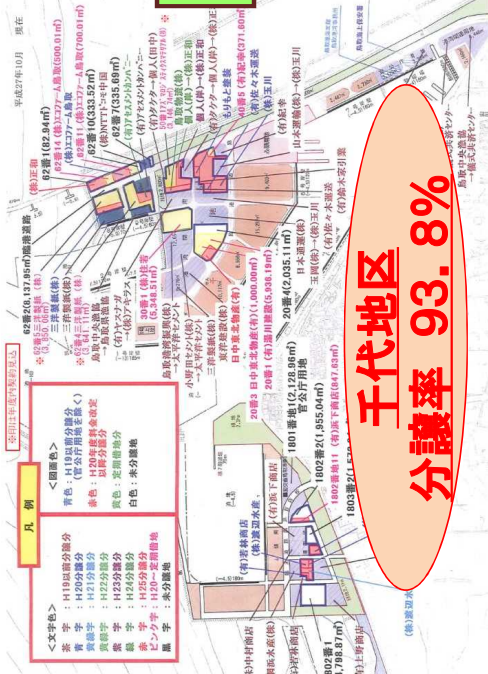
鳥取港の経済活動を支える鳥取港

取扱貨物量

港湾計画 (千トン)		H27年実績 (千トン)	
外貿	内貿	外貿	内貿
出	76	2.1	29.4
入	881	16.4	675.8
小計	957	18.5	705.2
合計	1,580		723.7

輸出入貨物の確保が課題

分譲状況



鳥取港 利活用促進の検討

■現状の分析及び課題の検証

- ・ 貨物・計画との乖離
- ・ 港湾施設の機能・堆砂対策
- ・ 用地・港湾関連用地不足

■今後の利活用方策の検討

- ・ 企業のヒアリング等を行い、貨物や動向調査を行い、専門家等の視点から貿易促進（開港）等の利活用方策や機能強化について検討

港湾計画改定

原木輸出



【原木輸出】H27.10

○ロシアの原木輸出制限や円安の影響も加わり、輸出しやすい状況

○県産材の販路拡大に貢献

-21万m3(H25)⇒36万m3(H31)

※総合戦略KPIより



鳥取港から原木初輸出

毎日新聞(H27.10.17)

鳥取の卸売会社 中国の木材基地向け
県産材を後押しし輸出
鳥取県産材が初めて中国向けに輸出された。鳥取県産材が初めて中国向けに輸出された。鳥取県産材が初めて中国向けに輸出された。

PKS輸入



【PKS輸入】
H28予定

イメージ図

雇用の増加

○製紙会社(鳥取市)
○重油高騰と固定価格買取制度の開始を契機にバイオマスボイラーに転換

○新たな設備投資

⇒ボイラー設備等 約70億円

○新たな雇用

⇒直接雇用 7名、就労誘発効果 63名

地域の活性化

鳥取港の利用が見込まれる企業立地

○今井航空機器工業(株)

・航空機関連部品製造 (H28年2月操業開始)

○(株)イナテック

・自動車部品製造 (H28年9月操業開始)

生産工程で大量の
金属くずが発生

毎日新聞(H27.5.1)

航空機産業が初進出

今井航空機器工業(株)が、鳥取県鳥取市に航空機関連部品製造工場を建設する。鳥取県産材を活用し、航空機産業への貢献を目指す。



工場建設費約1億5千万円、従業員100人を雇用予定

毎日新聞(H27.5.1)

金属処理に鳥取港の
利用を検討中